



2016 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦
SUPERBIKE RACE in MOTEGI
TOHO Racing レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

5月28日(土曜日) 天候：曇り 路面:ドライ
公式予選/1'51"063 11番手
5月29日(日曜日) 天候：曇り 路面:ドライ
決勝/7位 (23周)
開催地:栃木県・ツインリンクもてぎ
入場者数:12,200人 (土・日合計)

全日本ロードレース選手権シリーズ第3戦が栃木県・ツインリンクもてぎで開催された。JSB1000クラスにフルエントリーしているTOHO Racingにとって、今回は2戦目。まだまだシリーズは始まったばかりだが、熊本地震の影響を受け大分県・オートポリスで予定されていた2戦の中止が決定。シリーズとしてはもちろん、オートポリスを得意としている山口にとっても残念な出来事となってしまふ。今は、一刻も早い復興を祈るばかりだ。

今回は事前テストから雨がが多く、レースウイークに入ってから初日は雨と少しでも多くドライコンディションを走り、新しいブレーキシステムと、仕様変更を行ったKYBサスペンション、そしてブリヂストンタイヤとのセットアップを詰めて行きたかったところだが絶対的にドライでの走行が少なく思うように進んでいなかった。

JSB1000クラスの公式予選は、TOP6サバイバルというツインリンクもてぎ独自のノックアウト方式で行われ、まずは30分の計時で行われるQ1でトップ10に入らなければ次に進めない。山口は、今までQ1で終わったことはなかったが、走り始めるとフィーリングがよくない。セッション序盤のアタックで1分51秒063を出していたが、それではトップ10に残るのは微妙なラインだった。ピットに戻りマシンをアジャストして出て行くがタイムを更新することはできなかった。セッション終盤にタイムを上げたライダーが10番手にすべり込み、山口は0.003秒差で11番手となってしまふ。

去年は1分49秒台に入れており、現状に比べれば1秒以上速い。コンディションも違うため一概には言えないが、予選を終えた時点でサスペンションを以前のタイプに戻すことを決断した。決勝日朝のウォームアップ走行では、すぐに予選以上のタイムを記録し、その判断が間違っていなかったことを確認。マシンセットを少しでも進めグリッドに向かった。

好スタートを決めた山口は、1コーナーで9番手に上がるとオープニングラップでさらに順位を上げ7番手に浮上。4周目に前を走っていたライダーが転倒し、ポジションを一つ上げ6番手となる。しかし、背後に迫ってきたライダーに11周目にかわされ7番手となる。その後はバックマーカーも多く、差が開いたり縮まったりしていたが最後まで諦めずに前を追ったのだが…。23周という長丁場のレースを7位でフィニッシュしたのだった。

JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

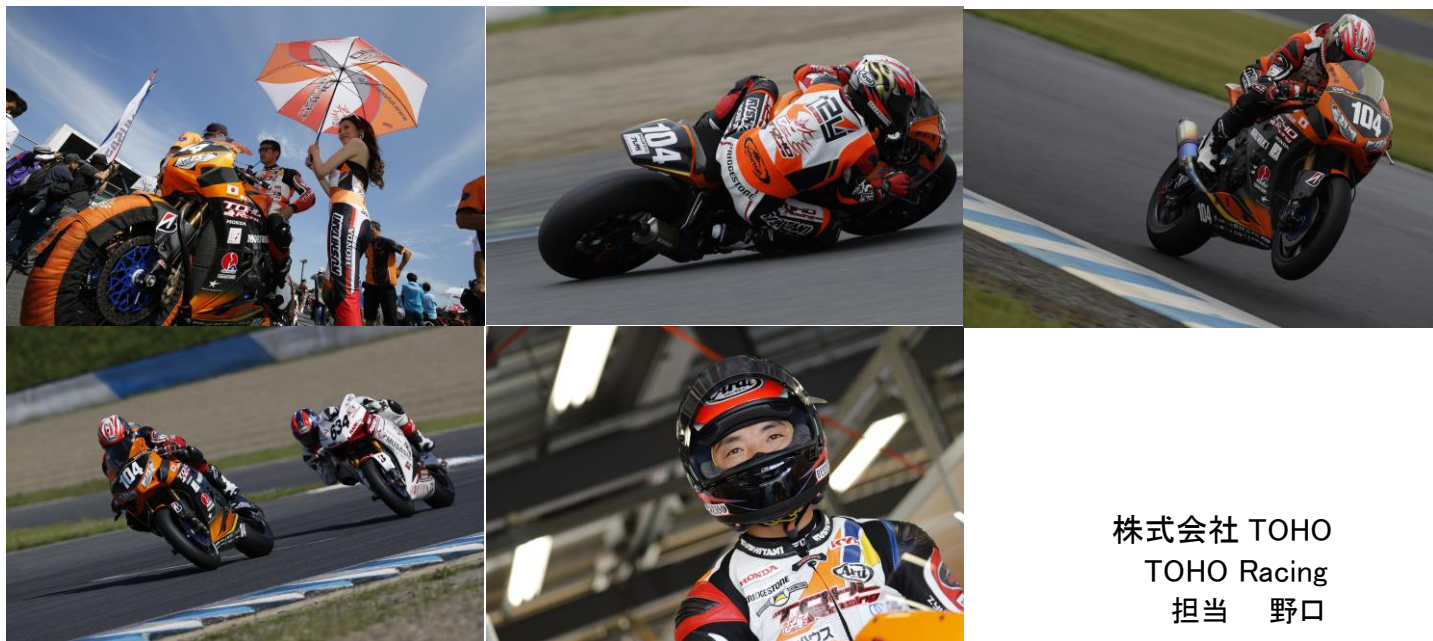
「今回は、新たな方向性を見出すためにサスペンションの仕様変更をしたのですが、ボクのタイヤ選択ミスもあり、納得できる状態でレースを戦うことができませんでした。最後まであきらめずに前を追ったのですが残念ながら届きませんでした。次回こそ事前テストから、しっかりテストをして納得の行く状態で戦えるようにセットアップに集中します」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「今回は事前テストから大きくサスペンションの仕様を変えたのですが、ドライでの走行が少なくセッティングを詰め切れなかったことが最後まで尾を引いてしまいました。決勝日朝のウォームアップで以前のセットに戻したのですが、先を見据えての変更でしたから判断が難しいところでした。今回のデータを次回に生かし、ステップアップしてSUGOに臨みたいと思っています」

総監督 福間勇二コメント

「事前テストから雨が多く、ドライでの走行が少なくなってしまいセットアップを詰めていくことが出来ませんでした。今回の走行データを生かし、次戦の第5戦SUGOでは、皆様のご声援に応えることが出来るよう、チーム一同頑張っって参りたいと思います」



株式会社 TOHO
TOHO Racing
担当 野口